

関電電気料金値上げ問題 Q&A

【原発動かさないと燃料費が大変だ】

Q 1 : 化石燃料費はどの程度増加しているのか。

『関電の説明』

○火力燃料費は3ヶ年平均で9120億円となり値上げ前の原価と比べ4436億円の増加となる。

○これは、販売電力量は減少したものの、原子力利用率の大幅低下（マイナス43%）により火力発電電力量が大幅に増加したため。

○H23年度実績（7574億円）と比較した場合も1550億円程度の増加となる。

○燃料の他社との共同調達、調達先分散化、米国ガス価格連動の導入やLNG価格決定方式の多様化をめざす。

『私たちの見解』

1, 特にLNGの購入金額は巨額です。しかも今後はもっと高い単価で購入するとしています。独立行政法人「石油天然ガス・金属鉱物資源機構」によると、9月のLNG価格は、イギリスが100万BTU（英国熱量単位）あたり9.64ドル。他方日本は、16.97ドルで2倍近い差があります。

この関電の表では、どのようなプロセスで化石燃料を購入しているのかわかりません。共産党の吉井英勝議員が2012年7月の衆議院経済産業委員会でLNG購入について「東電の100%子会社と三菱商事が出資した「セルト社」がオマーンから輸入し東電に100万BTU当たり18ドルで販売している」と指摘しています。関電もH23年度実績分について、いつ、どこの国からどんな契約と価格で、どの商社を経て、どれくらいずつ購入したのか等を明らかにすべきです。

2, 2012/11/28・19:30 NHKクローズアップ現代もLNG輸入価格の不可解な事態を詳しく放映しました。各国の輸入価格は「ドル/100万BTU」当たり、米国3.50、英国10.46、日本15.42、米の4.4倍の価格だと指摘しました。また中部電力水野社長が輸入先カタルと折衝している模様もリアルに伝え、原油価格×α=LNG価格と連動契約となっているので、αを低くする交渉の姿も伝えていました。

3, 世界最大のLNG輸入国なのに原油連動価格に縛られ、2008年までは似たような価格だったが米シェールガス開発で急落しているのに、日本の政府と電力会社が怠慢そのもので電力消費者に、このツケを負担させようとしていることは、到底許すことは出来ません。

4, なお舞鶴火力発電所等で石炭と混焼している木質ペレット使用量はまだ少ないですが、日本の里山保全や過疎地の経済発展のため大量に使用すべきですが、関電はこれをカナダから輸入しています。こうした日本の地域経済を考えない経営方針は間違いです。

関電値上げ申請、火力燃料費増加の予測

関電申請内容から速水作成

		平成20年改定 2008年度	平成23年実績 2011年度	平成25年改定 2014年度
重油	金額 億円	208	123	161
	数量 万キロリットル	31		25
	単価 円キロリットル	66,322		64,170
原油	金額 億円	1,374	2,775	3,218
	数量 万キロリットル	195		502
	単価 円キロリットル	70,662		64,134
LNG	金額 億円	2,807	4,167	5,268
	数量 万トン	445		727
	単価 円トン	63,013		72,423
石炭	金額 億円	284	502	464
	数量 万トン	227		392
	単価 円トン	12,471		11,847
木質ペレット	金額 億円	11	7	10
	数量 万トン	5		6
	単価 円トン	23,100		16,821
合計	金額 億円	4,683	7,574	9,120
	数量 万トン	967		1,741
	単価 円トン	48,448		52,402

よって、上記の点などについて完全な情報公開をしない限り、「火力発電燃料代高騰による電気料金値上げ」は認めるべきではありません